

11月



朽木西小だより



平成30年10月23日(火) 第11号 文責 地村

10月27日(土)は「西地区 草の根文化の集い」です。保護者や地域の皆さまにもお越しいただき、この日は西小の体育館がステキな劇場になります。4名の子どもたちは「文化祭にむけて、たいこや歌の練習をしっかりとやろう」を目標に、「歌謡ショー」「旅日記」の発表や和太鼓の披露に向け、一生懸命練習に取り組んでいます。また同時に、お昼の出店や花苗販売の準備も進めています。

この行事は、子どもたちが力を合わせて学習発表に向けて取り組むことで、物事を成し遂げることの大切さや難しさ、素晴らしさを学ぶ場であると思います。また、地域の皆さんに学習成果をご覧いただいたり、お話しさせていただいたりできる貴重なふれあいの場でもあります。

練習では、来ていただく皆さんに、どうすればうまく伝わるか、楽しんでもらえるかを考え、最終仕上げをしています。ぜひお越しいただき、子どもたちのがんばりをご覧ください。



◆校外学習(京都) 10/17

秋晴れのもと、校外学習で京都市動物園・平安神宮に出かけました。1、3年生にとって、JR湖西線や京都市営地下鉄を利用した校外学習は、今回が初めてです。スムーズに切符を買ったり改札を通ったり、また、電車内でもマナーをしっかりと守って乗車することができました。

動物園内では、印象に残った動物についてメモを取ったり、園内に置いてある記念スタンプを集めたりして、楽しい時間を過ごすことができました。午後は、平安神宮周辺を散策して、秋の京都を満喫しました。校外学習の内容は、草の根文化祭で「旅日記」として皆さんに報告する予定ですので、楽しみにしてください。



◆マラソン大会 10/18

運動会が終わってから、毎日、長休みを中心にがんばって練習に取り組んできました。全員が、毎日運動場のトラックを10周以上走り込み、着実に力をつけていくそのひたむきな姿には感動を覚えました。その結果、大会当日は4名とも3kmの距離(生杉往復)を見事完走し、試走時のタイムを大幅に上回る好タイムを記録することができました。これをきっかけに、今後も体力づくりに積極的に取り組んでほしいものです。沿道での応援、ありがとうございました。



◆トチの灰合わせ・灰洗い作業

10月に入ってから、皮むきしたトチの実の「灰合わせ」と「灰洗い」の作業をしました。灰の中にトチの実を入れ、お湯をかけて混ぜ合わせる作業は、なかなかの力作業でしたが、子どもたちはがんばって取り組みました。その後、灰を洗い流して残っていた薄皮を取る作業も根気よくできました。いよいよ栃餅づくりに向けて、最終段階になってきました。



努力を続けることの大切さ

いくらやってもうまくできなかつたことが、ある日を境に急にできるようになる…このような経験をされたことはありませんか？

たとえば、水泳や鉄棒などは、一生懸命練習を続けていてもなかなか上手にはならないものです。ところが、毎日練習を続けていると、ある日突然、それまでできなかつたことが急にできるようになることがあります。水泳でいえば、なかなかできなかつた息継ぎがある時スッとできるようになったり、鉄棒なら、それまでできなかつた逆上がりがある日急にできるようになったりする。よく言う「壁を越えた」ということです。

このことを、日本教育技術学会会長の向山洋一氏は、著書の中で「努力は段階的に重ねなければならぬが、進歩は加速度的に訪れる。」と述べています。努力を蓄積していくことと比例するように、進歩は一步一步見えるようには訪れてこないというのです。でも、目に見える進歩は訪れないけれど、自分の内では力が少しずつ蓄えられている。そして、一定のところまで力の蓄えができた時、いっぺんに目に見えるようになる。つまり、努力は下図のAのように一つ一つ積み重ねなければならぬが、上達はBのように、ある時、急に訪れるというのです。

今、学校では、子どもたちが文化祭に向けて和太鼓の練習をがんばっています。そんな中、ある子が「なかなかできなかつた太鼓のたたき方が、ずっと練習していたらできるようになった！」と嬉しそうに報告してくれました。先に述べたように、まさに、努力の積み重ねが「できる」という結果で目に見えたというわけです。

「努力してもなかなか上達しない時、進歩が目に見えない時が一番つらいけれども、うまくなるということは、毎日毎日貯金したがんばりを、いっぺんに返してもらうように訪れるものなんだよ。」

「かべを越えるまでの努力の積み重ねは人によっても違うけど、努力は一つ一つ積み重ねることが大事なんだ。」

このように、子どもたちを励ます時には、努力を続けることの意味や大切さも伝えていきたいものです。

